

## セネガル国事情

岩瀬 三夫

1. はじめに

筆者は、2001年から2003年までの2年間、JICA 長期専門家として西アフリカのセネガル共和国、セネガル測量局に派遣された。

以下は、セネガルに滞在した印象記をごく簡単に記したものである。

2. (1) 民族および言語

主要種族はウォロフ族(ダカール、サンレイなどの主要都市部に住み、主に落花生などを栽培)、セレール族(農、魚業)、トゥクルール族(農、魚業)、プール族(遊牧民)などである。

公用語は仏語であるが、地方ではウォロフ語が主要言語となっている。近年、若い世代に英語が普及しつつあり、公共機関などでは英語での対応も可能となりつつある。

政府機関の上層部との、英語でのやりとりも可能である。(留学、研修などで、外国経験者が多くなってきている。)

(1) 教育・文化

セネガルには、日本人学校は無い。(2003年現在)邦人の子供達は、アメリカンスクール、仏系スクールなどに通っている。

文化面では、各種展覧会、音楽会、セミナーなどが数多く開催されており、文化水準も高いとの評もある。日本からも音楽家や芸術家も訪れ、文化交流も盛んになってきている。

(2) 交通

全国に道路網は張られているが、一部幹線を除いてその殆どが穴あき道路であったり、雨後の冠水による通行不可になるなど、その状態は

劣悪である。

更に、車の輸入超過(中古車)による交通渋滞、違法駐車、交通事故多発、その原因でもある交通マナーの欠如など、難問が山積している。

市民の足となっているのが乗合いバスであり、市内、長距離とも廉価な料金で利用出来る。しかし、バスルートの不明、事故多発など外国人が利用するのは容易ではない。

タクシーは、乗る前に値段を交渉し決定するシステムらしく、ほぼ相場を知っておくことが肝心である。いずれにしても、外国人には難儀である。ところで、邦人の多くはドライバーを雇っているが、優良ドライバーを見つけるのはなかなか難しい。多くは、前任者からの引継が多いが、そのつてが無い場合は、レンタカー会社のドライバーを引き抜くことになるか、売り込みドライバーを雇うことになるが、かなりのリスクを負うことになる。ちなみに、賃金は2~3万円程度であるが、休日手当、超過勤務手当など加えれば、この国では相当な収入となる。

しかしながら、雇用に関するトラブルは裁判沙汰になりかねないので、慎重にならざるを得ない。ガードマン、メードなども同様である。

(3) 治安・衛生

西アフリカの中では、一応治安が良いとされている。しかし、賑わい通りでのスリ、ひったくりは日常茶飯事であることは言うまでもない。ただ、凶悪事件は少ないというだけである。が、近年その治安もだんだん悪化していると聞いている。都市への人口流入、無職者増加など、今後も不安材料は多い。

保健衛生面では、マラリア、コレラ、髄膜炎など、不安な病気に対する予防が必要である。蚊に刺されない、生水を飲まない等々、開発途上国では共通の難問である。

ただ、欧米系のクリニックがあり、重病でない限り一応医療施設は整っていると言える。

#### (4) 公共サービス

電話は、一般、携帯ともかなり普及している。特に、携帯の普及率は高く、国際電話可能であることからして、非常に重宝がられている。携帯本体は2～3万円であるが、通話料は1分間で100～200円であろうか。

インターネットは、企業、個人とも普及しており、プロバイダーも複数あり、即日アクセス可能である。(日本語のメール、モデムも問題ない)

これまでのニュースを得るには、新聞、ラジオが主であったが、インターネットによるリアルタイムでの情報が入手でき、海外生活環境が大きく変化した。

日本からの小荷物受け取りも、郵便だけでなくデリバリー会社の利用者も増えている。

割高だが、確実性、通関手続き簡単、4～5日位での住宅までの配達などを考慮すると、かなり利便性がある。

#### (5) その他

ダカールと言えば、パリ - ダカールラリーのゴール地点である。筆者も、滞在中そのゴールを見ることができた。ちょうど日本の某自動車メーカーのチームが優勝した時でもあった。砂丘を爆走するシーンは、迫力があつた。

その他、余暇の過ごし方では、ゴルフ、釣り、ソフトボールなどがある。

ソフトボールは、セネガル、韓国、アメリカ、フランスなどのチームと国際リーグ戦で戦うもので、10月～2月頃まで毎土曜日開催される。

#### (6) セネガル測量局

URL

<http://www.ausenegal.com/dtgc/> を参照に:

(いわせみつお)